

共同の論調 厳し過ぎる

読者センターに「温かみのある」報道求める声

加計報道問題の追及に会社はどう答えたか 上 2018年6月5日生協

組合は、新聞労連と共同で2月8日、元文部科学事務次官の前川喜平さんを招いて「前川喜平さんと考えるメディアのあり方 これでもいいの？山陽新聞」フォーラムを、岡山市勤労者福祉センターで開きます。フォーラムでは、組合方針を理由に、正副委員長の出向を拒否するというハラスメントに加えて、加計問題を一貫して小さく扱い、読者・県民に問題点を伝えないという紙面の問題も取り上げます。フォーラムを前に、これまでの団交、生協で、加計報道をめぐる追及に、会社はどう答えているか、シリーズでご紹介します。まず、2018年6月5日の生協からです。

藤井 加計学園の問題が正念場に迎えている。加計の報道については、日下さんが現在も編集を統括されているということだから、お聞きする。報道については、共同通信を頼っているが、本来ならば、加計学園は岡山の学園だから、山陽新聞社として、きちっと自前の報道ができるような体制を組んでほしいというのがある。紙面編集という問題でいうと、なるべく「加計」という言葉は使わない、「獣医学部新設問題」という言葉に置き換えて、「加計」という言葉は使わない、というような決まり事というか、暗黙の了解がある。上からの指示がある。本来1面に行くニュースでも、内政面に掲載するなど、ワンランク下の扱いをしている。今回、安倍首相と面会したか、しなかったかという問題で、首相は面会をしていない、加計学園の加計理事長も面会はしていない、担当の職員が面会していないのに面会したと言っただけなんだというコメントを出している。それが見ても、これは口裏合わせではないのかというように思うのではないか。その真実のところは、きちっと本来ならば、山陽新聞社として取材すべきなのではないか。

自制的な報道ではない

日下 編集担当として当然、責任を感じている。ただ、自前の報道も折々にはしている。今治の住民説明会などには記者を派遣しているというように聞いている。言われるほど、そんなに自制的な報道ではないと思っている。安倍首相がかかわる官邸の問題なので、自前の報道もしていかなければならないというのはよく分かる。共同通信に加盟しているわけだから、共同の配信記事を淡々と使っているという感じを受けている。

新聞社本来の役割とは違う

藤井 加計学園、岡山理科大の先生は優秀だし、生徒も優秀だし、そういった人たちに影響があるというのは分かる。一定の配慮が必要だということは理解している。ただ、あまり配慮し過ぎて、事は安倍政権の問題だから、森友決済文書の改ざんであったり、自衛隊イラク派兵の日報の隠ぺいであったり、あるいは裁量労働制のデータのねつ造であったり、底なしのように不祥事がどんどん、どんどん出てきている安倍政権。これをかえって擁護することになりはしないか。あまりに学生や先生に配慮するあまり、いまの報道は安倍政権擁護の方に働きはしないか。それは新聞社本来の役割とは違うんじゃないか。批判すべきは、きちっと批判することが必要だ。加計が嘘を言っているのであれば、それを暴いていくのが新聞社の務めだ。岡崎編集局長とも話をして、もう少し踏み込んだ報道をしてほしい。

日下 是々非々の立場で報道しなければならないと承知している。擁護するつもりは、全くない。ただ、読者センターには、共同通信の論調があまりにも厳し過ぎるのではないかという声の方が若干多いのかなあと感じている。日々読者センターからレポートをいただいており、それを読ませてもらうと、地元紙として、もう少し加計学園に対して、OBも多いのだから温かみのある報道したらどうかという声が多いというのは、書記長の耳にも入っていると思う。そういう視点もあるというのはご理解いただきたい。こちらが筆を緩めているとは思っていない。

藤井 厳しく書いてほしい。筆を緩めずに書いてほしいということをお願いしたい。

2019年1月16日

山陽新聞労働組合ニュース
e-mail: sanyoshimbunroso@yahoo.co.jp

内政面が目立たないというのは心外

加計報道問題の追及に会社はどう答えたか 中 2018年7月30日生協

本記と一問一答だけでいいのか

藤井 6月19日に加計孝太郎理事長が岡山で会見をした。山陽は、このニュースが1面にない。2面に本記と一問一答があって、それで終わり。展開しているのはこれだけ。まさに意図的だ。朝日は1面、2面で展開し、社説が載っている。毎日1面、3面、第2社会面で展開し、社説が載っている。中国は1面、3面に「表層深層」、それから社説が載っている。加計孝太郎理事長の会見は、問題の大きなポイントだった。前回の団体交渉で「岡山の場合は、加計学園のOBもたくさんいらっしやって、それに配慮する観点も必要だ」と労担、お答えになられたが、今回は大きなポイントで、安倍首相との会見（面会）を当事者が出てきて否定したということだから、きちっと伝える必要がある。これは1面に掲載されるべきニュースだ。

それから、あの会見は数々の問題点がある。なぜ、あのタイミングだったのか。大阪北部地震とW杯サッカーの日本戦に挟まれた、あのタイミングだったのか。どうして2時間前の通告なのか。どうして地元メディア限定なのか。どうして30分足らずで切り上げたのか。数々の疑問がある。数々の批判すべき点がある。

加計孝太郎理事長の会見は、記者クラブが要請して開いた会見ということになっているが、だとすれば主導権は記者クラブにあるはずだ。どうして加計が、あの会見を取り仕切ったのか。加計が取り仕切ったから、勝手な会見になった。そうしたことは、たいへん問題があるから、きちんと紙面で追及しないとイケない。

それから一番大事なポイント、追及すべき、もう一つのポイントは、安倍首相と会見（面会）していないのに会見（面会）したと言って、加計学園は今治市をだましたのだから、詐欺。だまして税金をかすめ取ったということになる。そうしたことも、きちんと追及しないとイケないが、山陽はできていない。本記と一問一答だけ。それも、目立たない2面で掲載する。

いくら岡山にOBが多いから、温かい目が必要だからといっても、この報道は違うと思うが、編

集担当取締役としてどうか。

日下 2面が目立たないと言われるのは心外だ。

藤井 1面ニュースではないか。

日下 1面に掲載してもおかしくないニュースだとは思いますが、2面でも十分、山陽新聞としてはちゃんと扱っていると思う。

藤井 そんなことはない。一問一答なんていうのは、淡々とやったことを載せるだけではないか。問題点の追及なんか、一問一答なんかじゃできない。だから「表層深層」があったり、解説記事があったりするんじゃないのか。山陽は、それらを一切載せてない。おかしいだろう。編集担当取締役として、きちんと考えてもらいたい。山陽新聞の紙面の質にかかわる問題だ。

バランス取らないといけない

日下 外部からも、そういうご批判も、もちろんいただいた。ただ、その逆の意見も読者からいただいている。そこはバランスを取らないといけないと思う。

藤井 ただ、バランスの取り過ぎというか、私は付度だと思う。あまりにも加計側に手厚いんじゃないか。

日下 そんなに加計に肩入れしているとは思っていない。

藤井 書くべき時には、きちんと書くんだ、どんなに仲のいい人でも、書くべき時には、きちんと書くんだということ、私は記者時代に教えられたが、いまがその時だ。きちんと書くべき時だ。こういう報道をしていると、山陽新聞の声価が、どれだけ西日本豪雨の時にいい紙面をつくっても、加計の報道ではあれだよ、と言われてしまう。豪雨の紙面は非常にいいと思う。足で稼いだ記事も出ている。非常に評価できる記事が出ている。でも、加計はだめ。そこを、さすが山陽新聞だといわれるような新聞にするために、編集担当取締役としてきちんと対応していただきたい。編集局を指導してほしい。

日下 ご意見は伝える。

2019年1月16日

山陽新聞労働組合ニュース

e-mail: sanyoshimbunroso@yahoo.co.jp

会長が理事をしているから歪むのか

加計報道問題の追及に会社はどう答えたか 下

2018年10月31日 団交

他紙と比べて質、量とも見劣り

藤井 加計の報道が、かなり他紙と比べて質、量ともに見劣りがする。10月7日に加計孝太郎さんが今治で会見している。それを報じる10月8日付の新聞各紙がどうだったかというのを調べている。山陽は、第2内政面（3面）に3段の扱いで本記だけが載っている。ごくごく地味な扱い。朝日は1面トップで載っている。2面に問題を掘り下げた「時々刻々」が載っていて、社会面でもサイド記事、一問一答、写真も載っている。10月10日付には「説明になっていない」というタイトルの社説を掲載している。毎日も10月8日付の紙面では、1面トップ。さらに、3面トップで経過表等を載せて、問題点等を掘り下げている。社会面では、まさに社会面らしい「加計氏 知らぬ存ぜぬ」という見出しの記事が出ている。中国新聞は、内政面（2面）実質トップで写真付きで報道している。安倍政権寄りといわれる読売、産経でも、山陽と同じ扱いでも社会面ないし第2社会面で報じている。読売、産経と比べても地味。以前の団交で労担は「岡山には加計のOBもたくさんいらっしゃるの、温かい目も必要だ」という答弁をされたが、加計に配慮するあまり、一般の県民・読者に問題の本質が伝わらないということになっていないかということに危惧している。これは本来は安倍政権の存否にかかわる問題であると認識している。国民が正しい判断をするための材料を提供するのが新聞の役目だと考えているので、あまり加計に配慮し過ぎるのはいかなものかと考える。

地元紙なりのスタンスがある

日下 地元紙なりのスタンスが、加計問題だけに限らず、あると考える。他紙と比べて、今回扱いの大きさ、掲載面に関しては違いがはっきり出ているが、別に加計に配慮したとかという思いはしていない。読者センターからの読者の声というのを毎日見させてもらっているが、加計学園の報道が手緩いという批判も数件はあったと思うが、それ以上に地元紙なんだから、温かい視点があっていいんじゃないかという、そういう声の方が多かったというのは、私の印象のなかでは厳然とある。

藤井 温かい視点が必要だと言われても、これ以上温かい視点を加えると載せるなどということになってしまう。

日下 是々非々で問題点は載せているので、そこは何ら問題ない。

藤井 それは違う。今回、加計孝太郎氏は、問題となった愛媛県の文書さえ見ていないと答えられているのだから、それ一つとっても、どれだけ加計の問題の取り組み方が甘いかということがはっきりしている。そここのところは、もっと突っ込まないといけない。しかし、山陽は本記だけしかない。これでは今回の会見の問題や、一連の問題は読者・県民に伝わらない。山陽新聞が「地域中核主読紙」となると名乗るのであれば、きちんとした紙面をつくって読者に届けるというのが役目だ。いくら加計のOBがいても、必要な情報はきちんと読者に届けるべきだ。これ以上温かい視点を加えたら載せるなどい

うことになる。山陽は本記しか載っていないのだから。それも地味な扱いで。これ以上、配慮のしようのないほど配慮している。

日下 そんなに配慮しているつもりはない。

社説も1本も出ていない

藤井 山陽は社説も1本も出ていない。これもおかしいと思わないか。加計問題が大きくなる前は書いていたが、大きな問題になってからは1本も出ていない。これもおかしいだろう。これだけ騒がれていて、社説も書かれていない、書けてない。これもおかしいことだと思わないか。越宗会長が加計学園の理事になられているため、何らかの配慮が働いているのではないかと思わせるを得ない。それは越宗会長の命令なのか、松田社長の命令なのか、あるいは付度なのか。

日下 会長が理事をしているかどうかというのは関係ない。加計学園の問題は、地元紙として是々非々で臨んでいるということ。そもそも会長が理事をしているということを知らない社員もたくさんいる。別にそういう指示も下りたことはない。

付度というほどじゃない

藤井 指示がないとすれば付度か。

日下 付度というほどじゃないと思う。

藤井 編集の責任者は日下労担だから、日下労担から指示が出ているということか。

日下 そんな指示はしていない。

藤井 どうしてこういう紙面になるのか、毎回、毎回。通常なら1面に掲載するニュースだ。

日下 そこは日々のニュースとの兼ね合いじゃないのか。

藤田（岡山県労働組合会議常任幹事） 越宗会長が理事をされているのは、山陽新聞社の推薦、あるいは継続的に理事に送り出しているという関係か。

日下 あくまで越宗会長の場合は、越宗個人として、理事を受けたということだと思う。我々役員も理事をされているというのは、後で知った。

県民・国民的批判に応える紙面を

藤田 越宗会長が加計学園の理事として、学園の運営にかかわっている。運営について問題があり、仮にも山陽新聞社の方向と違うようなことがあったら、山陽新聞社として意見を言うことになるかと思う。今回の問題でいえば、愛媛県知事でさえ、あの会見がよく分からないと言っている。加計学園はやっと会見を開いて、理事長が説明されたけれども、愛媛県の文書も見えないということで批判された。そういう運営が県民・国民的な批判を受けている。山陽新聞の会長が理事で出ておられて、そのような運営を是正するような意見を、本来なら述べる立場にあるのではないか。山陽新聞社としても、地元紙として、県民に判断材料を伝えるという意味では、もっと大きく扱うという立場がいるのではないか。それが逆に、会長が理事をされていることによって、山陽新

聞社の報道が委縮しているのではないかという感じを受ける人が多いのではないか。

日下 そういう疑念を持たれるとしたら、ご指摘のようなことがあるかなとは思う。ただ、越宗会長も地域とのつながりということで理事に就任したのだらうと思う。就実学園や川崎学園も、かつて理事を務めた役員もいるが、だからといって、就実学園や川崎学園を大きく取り上げろという議論になったことはない。会長が理事をしていることは事実だが、それ以上踏み込んで、会長から指示があったわけではないし、こちらからそれを議題にしたこともない。あくまで、この問題は、是々非々で臨めばいいと思っている。

取り上げていないことが問題

藤井 大きく取り上げることが問題ではなくて、取り上げていないことが問題なのだ。是々非々でと言われる

のなら、きちんと問題点を伝えるべきだ。本記だけではない、ほかにも解説記事もサイド記事も配信されるわけだから、そうした記事もきちんと使って、しかるべき紙面に、1面なら1面、社会面なら社会面にきちんと載せてやるということが大事なのではないか。これから、そういう報道にしていだけないか。あまりにも質量ともに、山陽の報道は見劣りがする。かえって、越宗会長が理事をしているから手加減しているんだらうと県民から見られるということの方が、山陽新聞社にとってはマイナスだと思う。日下労担は、編集の担当取締役なのだから、ちゃんと指示をして、きちっと載せろということ伝えてくれないか。そうしないと、付度が働いているのかもしれないから。

日下 そういうご意見があったことは重く受け止める。

「これでいいの？ 山陽新聞」フォーラムにご参加を

加計問題は、安倍首相が友人の加計孝太郎氏のために特区制度で便宜を図ったのではないかという、時の首相の政権運営にかかわる問題です。これまでのシリーズで見てきたとおり、山陽の報道は、読者に判断材料を提供するという新聞の使命を果たしていません。越宗孝昌会長が加計学園の理事をしているからでしょうか。団交では、会社はその点は関係ない、会長、社長からもそのような指示も出ていないと言います。だとすれば、付度ということでしょうか。

組合分裂が会社によって持ち込まれて半世紀以上。小さな組合の異論など、生協・団交の間だけ耳を塞いで聞き流しておけばいい。そうしておけば、あとはだれも文句を言う者はいないのだから。そんな会社の思いが透けて見えます。

いま、私たちは、組合の運動方針を理由に、正副委員長が40年働いた印刷職場から排除されるという組合弾圧と闘っています。加計報道の異常さと組合弾圧、根はいっしょではないか、と私たちは考えています。即ち、山陽新聞社には、正義に対する畏れがないのです。自分たちこそがルールであり、何でも自分たちの思い通りになると考えています。半世紀前の組合4役5人を解雇した組合弾圧や、その発端となった岡山・倉敷合併100万都市偏向報道も、チボリ偏向報道もそうでした。そして、盾突く者は無視し、あるいは排除する。その体質は、いくら社屋が立派になっても変わっていません。これで、いいのでしょうか。

組合は、年末27日の団交で、会社に出向拒否問題で早期解決の意思があるかどうかを1月4日までに示すよう求めていましたが、同日、「2人を早島工場に出向させない方針は変わらない」と回答してきました。そのため、組合と新聞労連は、2月8日に「前川喜平さんと考えるメディアのあり方 これっていいの？ 山陽新聞」のテーマでフォーラムを開くことを決めました。

元文部科学事務次官の前川喜平さんを招いて開く同フォーラムでは、市民と問題意識を共有し、山陽新聞が読者・県民にとってなくてはならない新聞になるための方途を考えたいと思っています。会場は岡山市勤労者福祉センター、午後6時半からです。第一労組の皆さんも、ぜひご参加ください。私たちの手で、山陽新聞を変えていきましょう。

2019年1月17日

山陽新聞労働組合ニュース

e-mail: sanyoshimbunroso@yahoo.co.jp